

# 郷土資料の 散歩道

図書館郷土資料室

☎ 21-6111 内線6201

## 米府鹿子

米沢を紹介する代表的な地誌

著者は米沢藩士原田直久

今回は地誌「米府鹿子」を紹介しま  
す。地誌とは、地域の自然・社会・文  
化など地理的な事象を記述し、その地  
域の特色を示したもので、「風土記」  
が日本最古の地誌とされています。

著者の原田直久は、宝暦六年（一七  
五六）に家督し御日帳方（藩の日記を  
書く役職）を勤めた武士で、その禄高



▲米府鹿子 全六巻

は一人半扶持二石と下級の家臣でし  
た。明和二年（一七六五）隠居して  
います。

「米府鹿子」の書かれた年代は宝暦  
年中（一七五二～一七六三）といわれ、  
次第に写し広まったものと思われま  
す。図書館では四種類の写本を所蔵し  
ています。

なお「鹿子」とは鹿の子や鹿のまだ

ら模様を意味しますが、地誌の書名に  
も用いられました（その由来は不明）。  
貞享四年（一六八七）に『江戸鹿子』、  
元禄八年（一六九五）には『仙台鹿子』  
が出版されています。「米府鹿子」は  
そうした地誌に影響を受け書かれたも  
のと思われます。出版には至りませ  
んが、多くの人に写し読まれたよう  
です。

町名や人口、家臣団の家紋、  
置賜の寺院一覧などを記載

「米府鹿子」は六巻から成り、一巻  
には各地への道程と町名・人口等が、  
二巻では米沢城の規模、年中行事の献  
立等が記されています。三巻には上級  
家臣団の石高・菩提寺・家紋等と、役  
職ごとの人名が記載されていますが、  
ある写本では家紋が絵入りで記載さ  
れ、上杉家家臣団の家紋を知る上で貴  
重な資料となっています。

四巻には、領内の著名な医師・絵  
師・鉄砲撃ち・歌人・神社等が列記さ  
れ、五巻には温泉や名所・産物等が記  
されています。また、六巻目は置賜の  
寺院一覧となっています（なお、写本  
によって順番が異なる場合があります）。

まさに米沢の総合ガイドブックとい  
えます。明治四十一年、他の地誌と共  
に『米沢古誌類纂』という本に一部  
翻刻されています。



▲上杉家家臣団の家紋が記載されています

米沢の地誌の数々

「米府鹿子」の他にも江戸中期頃か  
ら多数の地誌が書かれました。元文元  
年（一七三六）に山田近房が著した  
「米沢事跡考」と文化元年（一八〇四）  
に小幡忠明が記した「米沢地名選」は  
『米沢古誌類纂』に一部掲載されてい  
ます。また、享和元年（一八〇一）の  
国分威胤著「米沢里人談」は、伝説・  
珍話を多く収録した地誌です。

江戸時代に書かれた地誌は、荒唐  
無稽な伝説の類も収録されています  
が、現在に伝わらなかつた事象・伝承  
も記載されており、貴重な資料となっ  
ています。これらの地誌をめぐってみ  
ると、新たな発見があるかもしれませ  
ん。